

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU

CHARTERED 1995



2016~2017年度 No.214

11月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：ワイズ理解
ファミリーファースト

那須ワイズメンズク



10月 (アジア学院収穫感謝の日・バザー) 例会 10月14、15日(土・日)

2017~2018年度 主題
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)
 「ともに、光の中を歩もう」
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎(熱海)
 「広げよう ワイズの仲間」
 北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：内海 研治
 会計：村田・鈴木
 担当主事：内海 研治
 ブリテン：田村・村田

10月例会データ (出席率：100%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 3名
 ゲスト 3名 メイクアップ 1名

今月の聖句
 悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身につけなさい。

11月 Happy Birthday
 11/7 原田 晴子メネット
 11/14 河野 順子メン

巻 頭 言

シルバー大学校入学所感—小さな挑戦—

原田 時近

シルバー大学に入学しました。河野順子メンは一年先輩で、楯男兄は二年先輩です。実は昨秋現役を引退し、新たな生き方とて時、健康第一、次に豊かな趣味の世界、そのための社会との接点とて思いを巡らせておりました。

そのような中、シルバー大学校の存在を知り、河野メンからのお誘いで訪れ、学校祭を体験させていただきました。そしてすべての出発点である継続性を得る場としての適所と考えて入学したのです。10月3日に栃木県シルバー大学校入学式に参加してまいりました。入学者は485名。福岡県知事より祝辞をいただきました。学び、交わり、社会に貢献できる人としての器を身につけてほしい、との主旨でありました。私は自分の健康、自分の趣味、自分の社会性等々を養うためにと自分中心の世界を求めておりましたのに。しかし学校のプログラム、授業内容を知るにつれ、学生の皆さんと共に学び交わる中で、小さくとも知識を共有する、小さくとも友情を分かち合える、小さくとも社会性を育まれ、地域の身近なところでそれらの種蒔きができれば、あの小さな485人の力が大きな社会奉仕という力になるのではないかと。そしてこのことが学び甲斐になり、奉仕のし甲斐となり、余生の明るい希望へと継がる良いスパイラルを生み出していくと感じました。

振り返って、幸いにも私たちはYMCAという大きな組織の中のワイズメンズクラブに奉仕の場を与えられております。小さな奉仕が結集して大きな働きとなり希望となることを思います。ワイズメンズクラブの理念の下、喜んで楽しく奉仕の輪を広げていこうではありませんか。

10月（アジア学院収穫感謝の日 バザー）例会

担当主事 内海 研治

日時：10月14日（土）・15日（日）

9：00～16：00

場所：アジア学院

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長、原田、内海の各メン。メネット：田村、原田、村田

ゲスト：大浦（とちぎYMCAスタッフ）、大浦コメット、ユースリーダー（マロン、にこ、ぼわ）

合計：13名

10月の例会は毎年恒例となっているアジア学院

の収穫感謝祭に出店しました。模擬店では、昨年に引き続き「季節の贈り物」（秋の草花、マメガキ、おもちゃカボチャ、カラマツなどを盛りかごにアレンジしてつくるキッド）を販売し、お客さんからは多くの反響を得ることができました。前日に田村さん宅にて、たくさんの「季節の贈り物」を種類ごとに仕分けし、足りないものがあればお庭から収穫しそこに加えました。一つひとつの形がとても美しく、盛りかごにアレンジするとさらに彩り豊かに美しくなりました。他にも模擬店ではシイタケ昆布を仕入れ販売し、また衣料品も多く出品しました。キッズコーナーでは、駄菓子くじの販売や、こま・輪投げなどの昔あそびも楽しみました。



は、86,570円、諸経費に49,798円となりました。差し引き純益額36,772円のうち、アジア学院へ30,000円献金、残りの6,772円はワイズ特別会計に入金しています。



10月第2例会（役員会）報告

日時：10月13日（金）16：00～

場所：田村修也会長宅

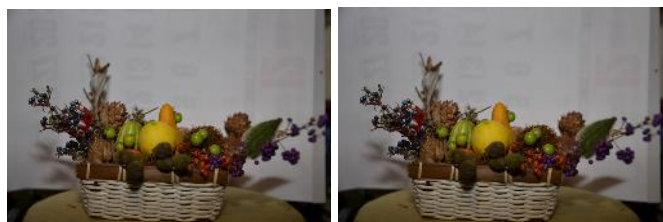
出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、鈴木、内海書記、田村メネット、村田メネット

協議事項

1. 10月例会アジア学院収穫感謝の日 バザー準備
それぞれの家より持ち寄った商品、知人からの寄贈

品への値付けを行った。寄贈して下さった方への感謝を込めてできるだけ高くし、買いやすくして・たくさんさんの収益が上がるようにと考えは大変難しいことでした。子供たちのためのゲームコーナーの実施（1回300円）。次に収益金の半分以上を占める「季節の贈り物」（写真）を作ることです。それぞれの個性があふれた「季節の贈り物」ができました。

多くの季節の草花は、田村会長・メネットが集められました。村田メネットが畑で育てたオモチャカボチャを中心に置きその周りに16種類ほど（オモチャカボチャ、ヒマラヤシーダー、コウヨウザン、コリンゴ（アルプス乙女）、クヌギ（ドングリ）、マメガキ、ショウブ、アマガキ（小さいカキ）、ハナミョウガ、トロロアオイ（花オクラ）、クリ、鷹の爪、アカマツ、カラスウリ、ストロブマツ、カラタチ、ヤシャブシ、コムラサキ（ムラサキシキブ）、センダン、ナナカマド又はピラカンサ、ハス、カリン、ユズ、イネ等が入っている）の草花・実を飾り付けました。



明日からは、雨になりそうなので雨対策をたて、YMCAよりテントを3張り借りることにしました。

今後の予定

・11月（第1）例会

日時：11月4日（土）午前10時～午後1時
場所：那須街道赤松林美林駐車場集合
内容：森林管理署の指導の下に植樹と歩道等の清掃

・11月役員会（第2例会）

日時：11月17日（金）午後6時30分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：12月（クリスマス礼拝・祝会）例会、1月例会（新年例会）、12月号ブリテンの発行等。

・第2回北東部評議会

日時：11月18日（土）13:00～16:00
場所：仙台YMCA

旧西那須野（那須西原）の緑と水（56回）

田村修也

この状況の結果、那須開墾社の株の販売関係でも成果がありました。運河関係では、内務省疏水課によりまして運河の予定路線の測量が行われることになりました。この結果印南さんと矢板さんは一応の目的を果たせましたので、11月21日に東京を出発して25日に帰京致しました。ところが、藤川栃木県令は、この明治16年中、既に那須野が原における灌漑用水の計画を立て、政府に上申していました。内務省疏水課書記官南一郎平の一行は、11月中に那須野が原を訪れ、12月2日から那珂川上流の西岩崎周辺の測量を開始しました。また補助水路としての蛇尾川上流臺沼の取入予定地は、肇耕社の中村章重たちが測量を行いました。測量はわずか29日間の日数で12月30日には完了しています。そして総工費は14万9788円と算出されました。この測量には、明治10年（1877）に、印南さん、矢板さんが群馬の渋沢さんを雇って実施した測量成果が相当に役立っているはずで、印南さんと矢板さんは、那須開墾社の業務を推進すると共に、この測量に対して陰に陽に協力したことは間違いないでしょう。

第2・第3回目の上京と試験掘りの認可についてふれていきます。明治16年中に、栃木県が、印南さんと矢板さんたちとは全く別に立てた灌漑用水の計画は、「那須原田用水路開通ノ儀上請」として、農商務省西郷従道あてに提出されました。この計画は工費15万2500円をもって、那須野が原北西部の河川や既存の用水路を全面的に利用して、那須野が原に3000町歩の水田を開くという計画であります。この計画は実現はしませんでした。すでにこの段階では、藤川県令も含めて、印南さんや矢板さんたちの運河計画を捨てていることがわかります。運河計画の首唱者でありました鍋島幹初代県令は他県に転出していましたし、東北方面への鉄道敷設が進行している中で、既に通運を目的としての運河は時代遅れの感があったのでしょう。印南さん、矢板さんはこのことを知って大いにショックを受けたに違いありません。けれども印南さん、矢板さんはこれに負けずに、従来からの運河計画に強く固執しています。明治17年（1884）5月に、「印南さんや矢板さんは同志と共に、「水路開墾ノ儀ニ付歎願」を作成して、上京の途中の5月3日に県庁（県庁は明治16年1883年に栃木から宇都宮に移転）に立ち寄って、三島通庸栃木県令に提出しています。その中で、運河の有利性を説いていますが、その記述は第48回をご参照ください※。こうして印南さ

んと矢板さんは、県庁で三島通庸知事から、西郷従道農商務卿と松方正義大蔵卿あての内申を取り付けまして東京へ向かいました。上京した印南さんと矢板さんは、上申書を政府に提出するとともに、連日政府要人への陳情を展開した後、6月9日に帰郷いたしました。この間に、栃木県令から内申を受けた西郷従道農商務卿は、太政大臣三条実美あてに「那須原疏水起業及工事経費御支出之儀ニ付伺」を提出しています。これは運河開鑿資金14万9788円を認めて頂きたいというものでしたが、太政大臣の認可は得られませんでした。

※「・・・或ハ日ン、輓近鉄路ノ敷設アリ、何ゾ迂遠ナル運河ニ巨額ノ金ヲ投ズルヲ用ヘンヤト、此説一理アルモノノ如クニ候得共、必意汽車ニ載スル所ノ物資、運河ヲ以テ運ブ所ノ物資ト差異アルモノニ有之候ハ衆人ノ熟知スル所ニ有之、旁水利ハ殖産興利ノ道ニ於テ、実に必用的ノモノト確信罷在候条・・・」

(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

政治や経済の混乱のニュースが続く中で、ノーベル賞の受賞は、特別に明るいニュースに感じました。2007年にノーベル医学生理学賞を受賞したマリオ・カッペキさんは、第二次世界大戦中にシングルマザーを選択した母親のルーシーさんが政治犯で投獄中の4年間は路上生活で盗みを働いたりして1人で生き延びました。その後、母親とアメリカに渡り、英語もわからないまま9歳で就学したそうです。努力をすればチャンスがあるというアメリカン・ドリームです。しかし、現在は経済によるところの教育格差が大きく、ドリーム(夢)ではなく、アメリカン・ナイトメア(悪夢)と揶揄されたりもします。

さて、日本も教育にかかる公的支出は、OECDの中で少なく、最下位と言っても良いです。子どもにかかる教育費の多くを親が負担しています。これは、明治時代からの初等教育機関の尋常小学校(じんじょう)が、国ではなく、地域の人たちがお金を出し合って作り、富国強兵に国がお金を使ってきた歴史があり、これが現在の教育に対する公的支出の少なさに繋がっています。特に今は、経済的格差社会が進行し、教育についても子どもの貧困が叫ばれ、格差の社会的世襲やライフチャンスの差についても根拠に基づき報告されています。このような時だからこそ、人生前半の福祉に対する公的支出を増額すべきではないでしょうか。

3. 11の東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県大船渡市、陸前高田市を中心とする気仙沼地方の方言では、子どもたちを「タカラモノ」と言うそうです。本当に子どもたちは社会の「タカラモノ」です。

社会福祉法人エルム福祉会だより

hikari no café 蜂巢小珈琲店

エルム福祉会 20周年感謝祭を終えて

10月9日(体育の日)晴天に恵まれて、「エルム福祉会20周年感謝祭」をhikari no café 蜂巢小珈琲店で行いました。

エルム福祉会の前身は、1984年(S59)大田原市で初めてとなる知的障害者の作業所「エルム共同作業所」でした。当時、特殊学級(現在の特別支援学級)の子供たちが卒業した後、居場所がなく、何とかしなければと考えた創業者の楡井(当時54歳)が私財を投じて、財団法人エルム会を立ち上げ、作業所を作ったのです。(現在の大田原市本町のhikari no café 本店)

開所当初は、4名の利用者しかいませんでしたが、その後「移動スーパー・サンクス」「エルム第2作業所」「地域生活ホーム」と規模が拡大していきました。

そして、現在の大田原市中田原(エルムの園)に土地が与えられ、1997年(H9)9月26日に社会福祉法人エルム福祉会が設立されました。

現在の事業所は9か所あります。

「就労支援事業所」として『エルムの園』『SELPみなと』『hikari no café 本店』『hikari no café 蜂巢小珈琲店』『児童デイサービス・生活介護事業所』として「smile』『joy's』『障がい者グループホーム』として『待降寮』(8か所)「障がい者相談支援事業所」として『相談支援センターエルム』『高齢者事業所』として『たじまの杜』

エルム福祉会の利用者様が「地域で生きる」ために、地域の皆さまのご理解とご支援が私たちのとって大きな力となっています。

昨年、大田原市より旧蜂巢小学校をお借りし、「hikari no café 蜂巢小珈琲店」をオープンさせることが出来ました。たくさんのお客様が来店していただき、私たちも大きく成長したと感謝しております。また、地元の方々との交流も盛んになり、今回の感謝祭には多くの方に出演・出店していただき大変盛り上がりました。感謝祭では「1,000人のお客様に来ていただく！」と目標を掲げ、全ての事業所をあげて準備を進めてきました。当日は1,500人以上の

お客様が来てくださりました。

エルム福祉会の事業所は「地域で生きる」ために点在しているので、これほどのお客様を集められる場所は今までありませんでした。旧蜂巢小学校を利用できたことは法人にとっても大変大きな意味がありました。神様の素晴らしい恵みに感謝しています。

そして、エルム福祉会の基本理念「キリスト教精神に則り、隣人愛をもって社会に参加する」また、ビジョンとして「地域のヒカリとなり、福祉のヒカリとなる」の実現に向けて、これからは特にエルム福祉会を支えてくれる人材を育てていく事、継承者を育てていく事が重要だと思っています。

今後とも職員が思いを一つにして法人の使命を担い、取り組んでいけますようお祈りに覚えていただければ幸いです。

YMCAだより

【ブランディング・スタートに寄せて】

『ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。(Ⅱコリント4章16節)』

さくらんぼ幼稚園では毎週月曜日にお祈りの時間「子ども礼拝」があります。その礼拝のときにこの聖句を引いて「古くなってゆくお饅頭と、毎日新しくなってゆくぼくたちわたしたち」のお話をしたことがあります。おいしいお饅頭も日にちがたつと古くなってゆき、乾いたり傷んだりしてやがて食べられなくなってしまいますが、わたしたちは古くならないばかりか、毎日新しくなってゆく！？と神さまはお教えになります、というお話をしました。今回ブランディングのスタートにこのことを思い出しました。

というのは、神さまがおっしゃる「わたしたちは内がわから毎日新しくなれる」ということは、大切なことや出来事の発見：みつかると、や、人との出会い：つながる！などをつうじて、わたしたちの思いや、考え方や、感じ方が変わって、生き方が変わってゆく：よくなってゆく！ことができることを意味するのではないかな、と思ったからです。

いま、全国のYMCAはブランディングを掲げて新しい出発を始めます。今回のブランディングのロゴ(マーク)やスローガンが新しくなったことは大切なことですが、内がわから「新しくなる/新しくなれる」ことが、最も大切だということを神さまは語られています。

新しいブランディング！日々、新しい！わたしたちひとりひとりが「よくなってゆく」ことができることへの感謝をして、新しいYMCAづくり！あらためて、

ぜひ一緒にください！

とちぎYMCA 総主事 塩澤達俊

【那須YMCA大同窓会を行いました！】

9月17日(日)に那須YMCAリーダー大同窓会が開かれました。那須YMCAは今年で創立20周年。たくさんのリーダーたちがこの20年間関わってくださっています。そこで20周年を記念する大同窓会をOBOGリーダー有志が企画し、現役大学生リーダーも交えて開催しました。当日は那須YMCA第1期のリーダーであるOBOGも参加して下さり、キャンプソングも歌いながら、那須YMCAの歴史を感じ、楽しいひと時を過ごすことができました。



【とちぎYMCAウィンタープログラムが始まります！】

11月13日(月)より、冬プログラムの募集受付が始まります。スキーキャンプやデイキャンプなど楽しい企画が盛りだくさんです。みなさまのご参加をお待ちしております！

※今回よりWEB受付のみになりました。

WEB受付：11/13(月)10:00~

WEBサイトURL：<http://tochigiymca.org/>

【YMCAイングリッシュ那須でハロウィンクラスがありました！】



10/25(水)~10/31(火)の間の3日間、YMCAイングリッシュ那須でハロウィンクラスがありました。昨年に引き続きトリック・ア・トリートプログラムを行いました！今年度も英会話教室の近隣の西那須野教会、扇寿司、ファミリーサポートセンター、セブンイレブンにご協力いただきました。感謝申し上げます。ハロウィンクラスでは、生徒と英語講師が仮

装し、「Trick or Treat!」とお菓子を貰いに行きます。子どもたちはとても楽しくプログラムを過ごしていて、YMCA近隣が賑やかな時間となりました。

【とちぎYMCA・那須YMCAの11月の予定】

- ・11/3 (金・祝) みんなでワイ・Y・さくらんぼバザー2017@さくらんぼ幼稚園
- ・11/4 (土) サタデークラブ@長峰公園
- ・11/12 (日) Yキッズ@みかも山公園
フェアトレードまつり@オリオンスクエア
- ・11/16 (木) ~11/22 (木) 那須YMCA イングリッシュ保護者参観
- ・11/18 (土) サタデークラブ@西那須野幼稚園
- ・11/25 (土) サタデークラブ@西那須野幼稚園
- ・11/26 (日) わくわくトライキッズ スポーツGOMI拾い・さんま祭り同時開催

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 佐々木麻佑(のんちゃん) ※写真左側

2. 国際医療福祉大学・薬学科1年

3. 茨城県

4. 子供が好きで

子供と関わることができるサークルに入りたかったから

5. 10月のYキッズの野外炊飯、コミュニケーションをとりながら新しいことに挑戦するメンバーたちを近くで見守っていて自分も挑戦したいと思えたから。

6. 薬剤師

7. 子供たちと関わることで沢山のエネルギーをもらえています! もっと沢山の活動に参加したいと思いません!



1. 濱田愛(ぼわ)

2. 国際医療福祉大学・薬学科1年

3. 沖縄県

4. 先輩と友達からの誘い

5. アジア学院収

穫祭→異文化を体験でき、いろんな国の良さを知れて、新しい発見もできたから



6. 将来の夢は、周りから頼りにされる薬剤師になること

7. YMCAメンバーということに誇りをもって、これからもいろんな活動に参加していきたいと思えます

世界YMCA/YWCA祈禱週間

立ち上がり、思い切って言いなさい。

世界のYMCA/YWCAでは、毎年11月に合同祈禱週の期間を設けています。2017年のテーマは「立ち上がり、思い切って言いなさい。~抑圧や、差別におかれた人びとの声を」とし、11月12日から18日の期間、各地のYMCA/YWCAにおいて学びと祈りの時が持たれます。

今年の合同祈禱週のテキストに、「声なき声」について触れている箇所があります。「その声が無視されたり、真剣に受け止められていない人。声をあげようとしても自由に表現することを妨げられている人。」私たちYMCAやYWCAの役割は、そのような「弱くされ、不利な立場に置かれている人びとのために声をあげ、声なき声のために話し続けること。また、それ以上にその人たちをエンパワーし、自ら声をあげることができるように導くこと」です。人びとを貧しくさせ、抑圧し、更に人権を否定するような力に対して声をあげ、公平に資源にアクセスするのを妨げるシステムや、限られた人だけにある正義にも声をあげなければなりません。

私たち日本のYMCAの新しいメッセージである「ポジティブネット」は、社会に希望をもたらし、新たな豊かさを提供するものです。そして、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし、痛みを分かち合う社会をめざして、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現につとめることを、日本YMCA基本原則に掲げています。

今私たちは、多様な社会において国や地域、文化や習慣、性や年齢、価値観などの異なり、障がい、そしてなにより権力によって、抑圧され声を届けることができない人がいない社会を創り、その社会を持続させるために、声をあげ、立ち上がることが求められています。

平和な社会の創造のために、立ち上がり、祈ります。

(日本YMCA同盟 総主事 神崎清一)